

那須の歴史
再発見!

那須町と 近現代の人々

vol.35



渋井鉄華 (1877-1961)

11月号は、旧伊王野村出身の画家・渋井鉄華を紹介します。渋井は、明治10年に伊王野村下町の老舗・綿屋の長男として生まれました。本名は、亀治といひます。幼いころは伊王野の名士・小山田虎の寺子屋で学び、画業を学ぶため、15歳で上京しました。上京後は、谷文晁の弟子・寒川雲晃(1823・1907)や荒木寛畝(1831・1915)小室翠雲(1874・1945)に学んで画業を磨き、山水花鳥・楼閣山水を得意としました。この時の兄弟弟子に両郷村(現大田原市)出身の関谷雲屋がいます。

在京時の渋井の活動については不明な点も多いですが、帝国絵画協会や師の小室翠雲が関わった異画会、野州美術会に参加したことがわかっています。確認されているうちで渋井は、大正2年に開催された富山日報社主催書画大展覽会に出品したのを皮切りに、各種展覧会・共進会で受賞していきます。主な受賞歴に、国産奨励共進会「山水夏山雨後之図」1等金賞(大正7年)、明治神宮鎮座祭記念会「双鶴ノ図」妙技鑒賞(大正8年)、関西美術普及会「青緑不老長生ノ図」妙技1等金賞(昭和3年)などがあげられます。大正13年、関東大震災の影響もあり、故郷伊王野に帰郷すると、画室を「知足庵」と称し、伊王野近郷を散策しながら、画業に勤しみました。渋井は、伊王野・専称寺の檀家でもあったことから、昭和14年に境内庭園の整備や本堂天井画の寄進を行っています。天井画は、花鳥が描かれ大変見ごたえのある作品です。天井画はほかにも、福島県棚倉町の如意輪寺にも存在します。また、昭和21年には、専称寺境内に古希記念として「筆硯供養碑」を建立しました。この石碑の表面には、慈母観音図が線刻で画かれ、裏面には渋井のこれまでの画業の足跡が刻まれています。

郷土の画家・渋井鉄華の作品(掛軸・屏風絵・額装)は12月上旬まで那須歴史探訪館で見ることが出来ます。この機会にぜひご鑑賞ください。

▼問合せ 那須歴史探訪館
☎74・7007



鳳凰図屏風(昭和21年)

かつこう

昭和29年11月3日に「那須町」が誕生して以来、本町は八溝那須林業地として、関東で有数の酪農地として、また、高原の温泉郷として発展してきました。合併の翌月5日に発行された「広報大那須」創刊号には「那須村、芦野町、伊王野村の合併は順調に進捗那須郡のトップをきって合併全く成り、地積三七二平方尺、人口三万一千

余の大那須町が誕生し十一月三日文化の日を期して木の香高き飯庁舎に於て新那須町の開庁式が開催された」と、新生「那須町」の誕生が一面を大きく飾っています▼節目の年の10周年には自衛隊音楽隊パレードや町章制定、30周年には新庁舎落成式典や町民号の実施、60周年にはプロモーション動画投稿など、毎回その時に合った記念事業が催されてきました。70周年の今回は、ロゴマークの作成です。花びらに描かれたイラストは自然、

こんにちは

赤ちゃん



令和5年5月生まれ

たきた かんじ
滝田 菜士くん



かんじくんは...
甘え上手で食いしん坊!
くるくるヘアがチャームポイントです!

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。詳しくは企画政策課広報広聴係(☎72-6935)まで。

町の世帯と人口 (10月1日現在・住民基本台帳) ()の数字は前月比

・世帯数	10,818 世帯 (- 4)	出生	6人 (± 0)
・人口	23,755 人 (- 41)	死亡	34人 (+ 3)
	男 11,853 人 (- 25)	転入	57人 (- 21)
	女 11,902 人 (- 16)	転出	68人 (+ 23)
		その他	2人減

広報那須がスマートフォンなどで読むことができます

